

# 国内希少野生動植物種アカモズの 生息域外保全確立に向けたファウンダー導入

長野アカモズ保全研究グループ 松宮裕秋



## ■ 2023年度成果の概要

本活動では、国内希少野生動植物種の鳥類アカモズの生息域外個体群確立を目的とした飼育下へのファウンダー導入等の取り組みを行い、次の成果を得ました。

- ・ 長野県の繁殖地で39つがいのアカモズを確認しました。
- ・ 営巣木に捕食者ガードを設置することで、繁殖成績が向上しました。
- ・ アカモズのファウンダー導入に向けたシミュレーションとして、近縁種モズの巣からの採卵と移送に成功しました。
- ・ アカモズの雛2羽と28卵を保護し、豊橋総合動植物公園へ移送に成功しました。その結果、13羽が孵化し、そのうちの7羽と雛で保護した2羽が巣立ちました。

## ■ 活動の背景

アカモズは個体数が激減している夏鳥であり、特に本州においては早ければ2026年にも地域絶滅することが予測されています。アカモズの絶滅を回避するためには、域内保全に加えて、緊急的に生息域外保全を開始し、保険個体群を形成することが必要です。そこで、当グループでは、豊橋総合動植物公園や人間環境大学と連携して、飼育下へのファウンダー導入を目的に、繁殖地における巣の保護、卵と雛の保護、動物園への移送を行いました。



**アカモズ** *Lanius cristatus superciliosus*  
スズメ目モズ科。北海道と本州で繁殖し、インドネシアへ渡って越冬する。

## ■ 活動内容と成果

### ① 分布調査

長野県の繁殖地で調査を行い、39つがいを確認しました。

### ② 巣探し・巣の保護

33巣を発見し、このうち24巣に波板などの捕食者ガードを設置しました。その結果、未設置の巣では半数が捕食されたのに対し、設置巣は8割以上が巣立ちに成功しました。

### ③ モズの採卵・移送

アカモズに先駆けて、同所的に繁殖する近縁種モズの卵を移送しました。産卵・抱卵期の4巣から計15卵を採卵し、孵卵器へ入れて、豊橋総合動植物公園へ移送しました。この過程で複数の移送方法を試行し、移送方法を確立しました。

### ④ アカモズの採卵・移送

悪天候や天敵などにより繁殖失敗した計7巣から計28卵と雛2羽を移送しました。その結果、13羽が孵化し、そのうちの7羽と雛で保護した2羽の計9羽が巣立ったことで、飼育下個体群確立に向けたファウンダー導入を達成しました。



移送中のアカモズ卵



飼育下で巣立った雛

## ■ 今後の展望

今後はファウンダー導入を継続しつつ、飼育下での繁殖と野生復帰を目指します。